

来週の市場とレート予想

	10/9(月)	10/10(火)	10/11(水)	10/12(木)	10/13(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券		+ 800	+ 1,000	ト ン	△ 1,000
財政他		△ 24,000	+ 3,000	△ 2,000	+ 67,000
資金需給		△ 23,200	+ 4,000	△ 2,000	+ 66,000
主要要因		国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 10年物価連動国債発行		源泉税揚げ 交付税特会借入・償還	国債発行(30年)
オペ期日	祝日	共通担保(全店) △ 2,400 CP等買入 △ 500 国債補完供給 + 300			
オペスタート		共通担保(全店) + 2,000	国債買入 + 7,100 短国買入 + 10,000 CP等買入 + 3,000		
(日本)		黒田日銀総裁の定例支店長 会議の挨拶要旨 地域経済報告(10月) 国際収支(8月) 景気ウォッチャー調査(9月)	機械受注(8月)	企業物価指数(9月) 日銀営業旬報 (10月10日現在) 日銀の保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	マネーストック(9月)
(海外)	欧 ユーロ圏財務相会合	米 ミネアポリス連銀総裁講演 米 グラス連銀総裁講演 欧 EU財務相理事会	米 FOMC議事録公表 米 シカゴ連銀総裁講演 米 NAFTA再交渉、第4回協議 (15日まで、ワシントン)	米 週間新規失業保険 申請件数(7日終了週) 米 G20財務相・中央銀行 総裁会議(13日まで、ワシントン) 米 ハウエルFRB理事講演	米 CPI(9月) 米 小売売上高(9月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(10月速報値) 米 グラス連銀総裁講演 米 シカゴ連銀総裁講演 米 ハウエルFRB理事講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ △0.045
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.015 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初368兆600億円から始まり、4日には税揚げ等を主因に365兆4,100億円まで減少。その後も国債発行等の要因で減少し、週末には363兆9,700億円となった。無担保コールON物は、地銀業態を中心に週を通して調達意欲が強い地合であった。同加重平均金利は、週初△0.047%であったが、その後は△0.043~△0.032%で推移し、週末4日積みとなる6日には、△0.028%まで上昇した。ターム物は、1W~1M物で△0.045%~△0.035%の出合いが見られた。2日、日銀が発表した9月の短観によると、大企業製造業業況判断DIが+22と、2007年9月調査以来10年振りの高水準となった(2007年9月調査+23)。来週は、日銀地域経済報告(10日)、海外では、ユーロ圏財務相会合(9日)、FOMC議事録公表(11日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.000
TDB 3M	△0.22 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約8,300億円で、週間償還額の約3,000億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に上回った。中間期末明け、卸売・鉄鋼・不動産等複数の業態から、連日まとまった額での調達が行われた。発行レートは投資家のニーズが強く、比較的大きな額での発行であっても、マイナスから0%近辺での出合いであった。来週の償還額は、約2,900億円となっている。一般事業法人は、復活発行等で積極的に調達を進めており、先週と変わらず発行が膨らむことを予想する。12日に、CP等買入オベが3,000億円程度オファーされる予定。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での推移が予想される。現先レートは、-0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での動きであろう。

<TDB>

4日に国庫短期証券6M712回債の入札は、最高落札レートは△0.1603%(前回債△0.1823%)、平均落札レートは△0.1643%(前回債△0.1983%)と、前回債からマイナス幅を縮小した。一方、5日の3M713回債は、最高落札レートは△0.1617%(前回債△0.1550%)、平均落札レートは△0.1685%(前回債△0.1652%)と前回債からややマイナス幅を拡大している。セカンダリー市場は堅調な地合で、3Mが△0.185%、6Mが△0.0172%、1Yが△0.17%で出合。いずれも入札水準より買い進まれた。来週は10月12日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは先週末同レベルの△0.09%台からスタートしたが、レートは低下基調。週央にかけて概ね△0.10%台前半の出合いが続いた。TDB3M・6Mの発行が重なった10日受渡しでは△0.09%台まで上昇。週末には国債・国庫短期証券買入オベがオファーされ△0.10%近辺まで低下し越週した。SC取引では、10年348回債が入札前日△0.35%近辺の出合い。以降は△0.10%台半ば~△0.20%前後で推移した。5年133回債は、4日の国債買入オベ後△0.20%台後半~△0.30%近辺で一部取引された。他2年378・379・380回債、10年336・340・341・342・343・344・345・346回債、20年161・162回債、30年55・56回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。